

大阪インターナショナルチャーチ
アロン・デリオン
タイトル：驚くべきクリスマス
聖書箇所：ルカ 2:4-21

導入

約 2000 年前、イスラエルでは皇帝が住民登録をさせることにしました。それで、住民は皆故郷に帰って登録をしなければならないと命じました。

2:4 ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、

2:5 身重になっているいいなずけの妻マリヤもいっしょに登録するためであった。

皇帝アウグストからの勅令が出たので、ヨセフとマリヤも住民登録をしなければなりません。皇帝が決めたことだから従わなければなりません。しかし、ひとつ問題がありました。ふたりはナザレからベツレヘムへ行かなければなりませんでしたが、マリヤは妊婦でした。約 100 キロもの距離を徒歩で移動しなければならないのです。神戸の三宮から和歌山の駅までで約 100 キロです。それだけの距離を歩くことを想像してみてください。おそらく数日はかかったでしょう。

ここにははっきり書かれていませんが、ヨセフはおそらく、出産の日までには戻って来られると思っていたのでしょうか。または、途中で出産する必要があっても、宿泊先をみつけれられるはずだと思っていたのではないのでしょうか。ふたりは、宿を前もって予約していません。

子どもたちにこう教えると、どういう反応をするでしょう。

1. どうしてホテルをネット予約しなかったの？この時代、ネットはありませんでした。
2. じゃあ携帯を使えばよいのに。携帯電話もありませんでした。
3. じゃあ、普通の電話を使えばよいのに。普通の電話もありませんでした。
4. じゃあ、ホテルに手紙を書いて予約すればよいのに。宿の住所をどうやって調べるのでしょうか。ファクスは？ファクスもありませんでした。

唯一残された方法は、泊まる部屋があることを願いながら行ってみる事です。または、出産前に戻って来られることを願うだけです。

こうしてふたりは、ふたつのことについて見込みが不確かなまま住民登録に行くことになります。

1. ナザレに戻って来るまで子どもは生まれません。
2. ベツレヘムでの宿泊先を見つけることができる。

さて、ふたりは子どもが生まれる前に帰ってくるのでしょうか。ベツレヘムで宿を見つけることができるのでしょうか。

2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、

移動中には起こってほしくない事態になりました。マリヤが陣痛を感じて、生まれそうだとすると、ヨセフはきっと焦ったでしょう。「どうしよう。落ちつけ、落ち着くんだ」そして赤ちゃんが生まれました。

2:7 男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

屋外での出産を想像できますか。シーツや毛布などありません。とりあえずあった布を使うだけで

す。荷物の中にあったものか、ヨセフの衣服だったかもしれませんが。そのようには書いていませんが、雨が降っていて雨宿りする場所が必要になったのではないのでしょうか。こうしていくつかの宿を訪ねます。部屋は空いていませんか。申し訳ありません、満室です。あちらの宿に行ってみてください。次の宿も同じことです。追加料金を払ってもなんとかなりませんか。

ふたりは家畜小屋を見つけます。ここに入ろう。本当にここに入るの？しょうがないだろう。ふたりはおそらく一晩過ごして住民登録を済ませ、帰路に就こうと考えていたのでしょう。

ヨセフとマリヤ、そしてイエスは家畜小屋にいます。このとき、野原でどんなことが起こっていたでしょう。これはどきどきするおもしろい場面です。

2:8 さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。

これは、ヨセフとマリヤ、イエスが家畜小屋にいたときに同時に起こっていることです。羊飼いたちは羊の群れを夜通し見守っていました。辺りは真っ暗です。羊は言葉を話しません。ですから、真っ暗な広い野原は静まりかえっています。羊飼いたちは番をしているのですから、不審な音がしないか耳をそばだてています。ライオンやクマ、オオカミなどが襲ってこないか小さな音にも敏感です。

2:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。

主の使いはどんなふうにも彼らに現れたのでしょうか。

「みなさん、こんにちは！」と大声で声を掛けたのでしょうか。

皆さんが主の使いだったら、どんなふうにも現れますか。もしできたらきつとおもしろいでしょう。

ここに「ひどく恐れた」とあるのが私の好きな部分です。

予想していないときに誰かが現れるとびっくりします。私がロサンゼルスで行っていた教会の牧師の息子はよく、物置や箱の中に隠れて人を驚かせていました。みんなそうされて笑っていました。

私も息子が何かに集中している時に驚かしたりします。

羊飼いたちは、主の栄光で光り輝く御使いの出現に驚いてひどく恐れしました。

2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。

落ち着いてください。恐がらないでください。

あるとき、私の友人にひどく驚かされたことがあります。私は殺されるかと思ったので、助けを呼ぼうと叫びました。友人は「恐がらないで大丈夫。僕だよ。」と言ったのですが、私は大声で叫んでいたのが聞こえませんでした。

なぜ恐れなくてよいのでしょうか。御使いはこう言います。

今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。

御使いはただの知らせではなくすばらしい知らせを伝えに来てくれました。小さな喜びではなく、すばらしい喜びの知らせです。一部の人たちではなく民全体のための知らせです。

御使いはこの知らせが幸せをもたらすとは言いません。幸せと喜びは別物だからです。幸せは私たちが置かれた状況に左右されますが、喜びはそうではありません。喜びとは、たましいの奥深くを満たしてくれるものです。

私はクリスチャンになる前、幸せでしたが喜びはありませんでした。

御使いは「すばらしい喜び」と語ります。「すばらしい」を意味するギリシャ語は「メガス」です。

「メガ」という単語の語源です。メガは大きいという意味です。マクドナルドには初めチーズバーガーがありました。そして、ダブルバーガー、ビッグマック、メガマックと大型化しました。この知らせはメガな喜びをもたらすのです。

その知らせとは何でしょう。すべての人にメガな喜びをもたらせることは何でしょう。

日本の消費増税がやめになったという知らせでしょうか。それはよい知らせでしょう。けれども、すべての人にメガな喜びをもたらすことはないでしょう。イタリアの小さな村に住む人にとってはまったく関心のない話です。日本に住む私にとってもうれしい知らせですが、心に喜びを与えては

くれないでしょう。

吉野家が値下げするという知らせでしょうか。それもよい知らせでしょう。けれども、心の喜びにはつながりません。ベジタリアンの人にとっては無関心なことです。

では、すべての人にメガなすばらしい喜びをもたらす知らせとは何でしょう。欧米人だけではありません。日本やアジアの人だけではありません。すべての人です。その知らせとは何でしょう。

すべての人にメガなすばらしい喜びをもたらす知らせが次の個所に記されています。

2:11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。

これが私たちにすばらしい喜びをもたらす知らせです。あなたがたのために救い主がお生まれになりました。あなたがたとは誰を指しているのでしょうか。これはとても興味深いところです。なぜなら、あなたがたとはつまりあなたを指しているからです。

「私は仏教徒として育てられました」とあなたが言っても、御使いは「あなたのために救い主がお生まれになりました」と言います。

「私は無神論者です」とあなたが言っても、御使いは「あなたのために救い主がお生まれになりました」と言います。

「私はまだ 13 歳です」とあなたが言っても、御使いは「あなたのために救い主がお生まれになりました」と言います。

私は昔、浜松である大柄な男性と出会いました。私は彼に福音を分かち合い、イエスは罪をすべて赦してくださいますと言いました。これまでの罪も今の罪も将来の罪もです。すると彼は怒って立ち上がり、「俺のことも、今までしてきたことも何も知らないくせに！」と言いました。そしてそのまま立ち去りました。そのとおりです。私は彼のことを知りませんし、今までどんなことをしてきたか知りません。けれども、御使いは「あなたのために救い主がお生まれになりました」と彼にも言うのです。

もしかすると「私はクリスチャンだけれども、喜びを失ってしまった」とあなたは言っているかもしれない。そういうことはあります。そんなあなたには今日がすばらしい日となります。あなたのために救い主がお生まれになったことを思い出すメガな日です。

御使いは「あなたがたのために救い主がお生まれになりました」と言います。

もし私が羊飼いで、隣町で私のために救い主が生まれたと御使いから聞いたら、その人をどうやって見つけたらいいか聞くでしょう。

ここまででは、御使いはその赤ちゃんの名を明かしていません。ですから羊飼いたちは赤ちゃんの名前も住所も知りません。赤ちゃんは毎日生まれますし、生まれたての赤ちゃんはたいてい屋内にいます。

その赤ちゃんを探して一軒一軒家を訪ねればよいのでしょうか。もしそうしたとして、どの赤ちゃんがメガな喜びをもたらす赤ちゃんなのかどうやって見分けるのでしょうか。少し想像してみてください。

すみません。お宅に赤ちゃんはいますか。

はい。

お会いできますか。

いいえ。

赤ちゃんに会わせてくれる人がいたとしても、それがその赤ちゃんだとどうやってわかるのでしょうか。

産婦人科に行って、「赤ちゃん全員に会わせてください」と言ったら、不審者だと思われて追い出されてしまうでしょう。

では、彼らはどうやってその赤ちゃんを探し出せばよいのでしょうか。

大変な人探しの始まりです。けれども御使いは親切なのでヒントを与えてくれました。私の想像では、御使いは映画の中に出てくるような深刻な面持ちではなく、クイズ番組の司会者のような様子だったのでないでしょうか。

ヒントは次のとおりです。

2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つめます。これが、あなたがたのためのしるしです。」

これはとてもよいヒントです。まだ少しむずかしそうですが、だいぶ絞られてきました。家畜小屋をひとつひとつ調べればよいのです。こうして羊飼いたちも少し落ち着き、作戦を練り始めたかもしれせん。

次にどんなことが起こったでしょう。

2:13 すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現れて、神を賛美して言った。

2:14 「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」

「すると、たちまち」という部分が私は好きです。

御使いはもうひとりやふたりではありません。天の軍勢です。たくさんの御使いです。何人くらいでしょう。はっきりはわかりませんが、私の想像ではスタジアムいっぱいといった感じです。スタジアムを埋め尽くす観客が応援したり歌ったりする様子を思い浮かべてください。御使いたちの歌声はきっとスタジアムに響き渡る歓声より大きかったことでしょう。

御使いたちは歌っていたのでしょうか。それはラップでしょうか。応援団のような声援だったのでしょうか。踊っていたのでしょうか。

御使いたちはどんな格好をしていたのでしょうか。聖歌隊のような服装だったのでしょうか。私にはわかりません。

どんな姿にせよ、たくさんの御使いが突然現れて、羊飼いたちはずいぶん驚いたことでしょう。

夜に羊の番をしていたら、急に御使いがひとり現れてすばらしい知らせを告げ、その赤ちゃんを探すという課題を託します。そしてスタジアムいっぱいの御使いたちが神を賛美するのです。それはずいぶんにぎやかだったでしょう。

2:15 御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、

ここはおもしろい場面です。最初は暗く静かだったところに、御使いが現れて羊飼いたちはひどく恐れます。彼らはしばしスポットライトを浴び、次に突如として御使いの大群が現れます。そして御使いたちはついに彼らを離れて天に帰ります。

どうやって帰ったのでしょうか。急に消えたのでしょうか。それとも、「それでは皆さん、さようなら」と言って列を組んで去っていったのでしょうか。

どちらにせよ、また静寂が戻りました。

羊飼いたちは互いに話し合った。「さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見て来よう。」 2:16 そして急いで行って、マリヤとヨセフと、飼葉おけに寝ておられるみどりごとを捜し当てた。

この場面はこんな風だったのではないのでしょうか。

あなたはこっちの小屋を調べてください。私はあっちの小屋を調べるから。

赤ちゃんは、いたか。

いや、いない。

家畜小屋に突然訪ねて行って、農家の人たちを驚かせてしまったのではないのでしょうか。「赤ちゃんはいませんか?」「赤ちゃん?」農家の人たちの中にも、何事だと思って羊飼いたちについていった人がいたかもしれません。

もし見知らぬ人がやってきて、「ここに赤ちゃんはいませんか」と訊かれたら、どうでしょう。あなたが「いません」と答えると、彼らは走り去っていきます。何が起きているのか知りたくて、あなたもついていくのではないのでしょうか。ですから、近隣の人たちも羊飼いについていっただろうと思います。

2:17 それを見たとき、羊飼いたちは、この幼子について告げられたことを知らせた。 2:18 それを聞いた人たちはみな、羊飼いの話したことに驚いた。

たくさんの人たちが羊飼いについて行き、羊飼いたちは彼らに自分たちの経験したことを話したの

でしょう。

野原にいたら光が見えて、御使いが現れたのです。それで私たちはここまで来ました。この赤ちゃんがすべての人に喜びをもたらすお方です。

2:19 しかしマリヤは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。 **2:20** 羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

羊飼いたちは、どんなふうにも小屋を後にしたのでしょうか。「どうぞ旅を続けてください」と言ったのでしょうか。家に帰ってからはどうだったのでしょうか。

羊飼いの妻：「今日はどんな一日だった？」

羊飼いの妻：「すごい日だったよ。野原で羊の番をしていたら…」

羊飼いの妻はこう言ったかもしれません。「今日生まれた赤ちゃんが、私たちにすばらしい喜びを与えてくれるお方なんだよ」

妻はこう答えたのでしょうか。「でも、私は幸せよ。今日の晩御飯はすき焼きよ。今年ももう少し。ポークも出たし、今のままで幸せじゃない。」

「いや、違うんだ。喜びだよ。喜びっていうのは、神様だけが与えてくださる幸せなんだよ。」

今日ここに初めて来られた方で、今まで幸せと喜びは同じことだと思っていたという方もいらっしゃるでしょう。もしあなたがそうなら、2000年前に生まれたこの赤ちゃんとぜひ出会っていただきたいと思います。さて、この赤ちゃんは誰でしょう。

2:21 八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子はイエスという名で呼ばれることになった。胎内に宿る前に御使いがつけた名である。

この赤ちゃんは誰でしょう。それは、イエスです。イエスは、すべての人にメガな喜びをもたらすためにお生まれになりました。あなたが誰であろうと関係なく、あなたのために生まれてくださいました。裕福な人も貧しい人も、家庭環境の恵まれた人もそうでない人も、暴力団の組員も、後悔の人生を歩んでいる人も、分け隔てはありません。国籍も年齢も関係ありません。小さな子どもたちもおなじです。イエスはあなたのために生まれになりました。今日はそのことを思い出す日です。もっと知りたいと思うなら、礼拝後に会堂後方までお越しください。係の者がご質問にお答えします。